

令和4年度 府民 野鳥観察会「亀岡市平の沢池の野鳥」報告

【主催】 京都府山岳連盟

【主管】 自然保護委員会

- 【日時】 令和5年2月12日(日) 8:30~11:40
- 【実施場所】 平の沢池(亀岡市馬路町池尻) 下池~中池~上池周辺
- 【集合】 8:30 JR 嵯峨野線亀岡駅北口
- 【参加者】 一般会員47名 自然保護委員16名 外部講師3名 計66名
- 【講師】 谷角裕之(一社 日本山岳協会認定自然保護指導員)
西村克之、小野田香澄、石川順一(日本野鳥の会京都支部)
- 【行程】 8:30 JR 亀岡駅北口集合 出席確認
8:55 京阪京都交通バス JR 千代川行き乗車 9:20 池尻バス停下車
9:35 下池の西側のスペースに集合
開会挨拶 講師紹介 班分け(3班)
観察のポイント・カモの種類などについて概説
9:50 下池から観察開始
10:15 東屋
10:30 中池(トイレ)
11:05 上池鉄塔下 観察・集合・説明
11:35 鳥合わせ、集合写真撮影
11:40 解散
- ※ 解散後は池尻バス停より 12:03 分発 JR 亀岡駅行き、13:02 分発 JR 千代川駅行きバスなどに乗車、徒歩で JR 駅まで歩くなどして終了した。
- 【コース距離】 約 1.5km
- 【天候】 快晴無風 気温約 12℃
- 【役割分担】 CL: 谷角 受付: 方山 会計: 光島 無線: 湯浅
写真: 山本・丸山・服部 記録: 深見・丸山・服部・山本
スーパー: 北川 地図作成: 岡田
- 【観察記録】

今年度は、亀岡市の平の沢池にて野鳥観察会を行いました。47名の参加者を得、講師からは、種名の同定にとどまらず、生態や環境などについての詳細な説明をいただき、水辺や山野の多様な野鳥を興味深く観察することができました。

お目当てのコウノトリは残念ながら留守でしたが、おだやかな早春の日差しを浴びながら、参加者それぞれに双眼鏡をのぞき、互いに教え合う和やかな楽しい観察会となりました。日本野鳥の会京都支部の講師の皆様、ご協力ありがとうございました。

観察内容の詳細は以下のとおりです。

1 下池西の集合場所にて

谷角委員より配布資料をもとに、潜水採餌型と水面採餌型の水鳥の分類、今日見られそうな主なカモの種名と特徴について写真を見ながら事前説明を受けました。日本野鳥の会京都支部の講師からも、双眼鏡のピント調整の仕方や基礎的な観察方法、上空に現れたトビと、ノスリの違いなど早速実戦的な説明を受けながら出発しました。



2 下池から東屋まで

水面に浮かぶ数百羽の水鳥を堤より観察。マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、ヨシガモ、オオバンなどの識別ポイントとそれぞれの求愛行動や交尾など、生態・習性を説明していただきました。人影を警戒して岸から離れたカモ類の識別には8倍の双眼鏡ではやや困難でしたが、講師持参の20倍程度のフィールドスコープもを見せていただき、マガモやヨシガモの美しい緑や青は色素でなく羽毛の構造による光の反射の結果であることなどを伺いました。



ヨシガモ



マガモ

(下池から東屋へ)



3 中池東から道の駅横の農道へ

東屋付近から間近に見える水面のヨシガモや堤防のヒドリガモ、カワウやアオサギを観察したあと中池の北側、葦原の岸辺に休むコガモの群れを観察。道の駅横の農道へ、下池からずっと道沿いの雑木や田畑に現れたシジュウカラやメジロ、ヒヨドリ、モズ、セグロセキレイなど山野の鳥も確認しながら上池に向かいました。野鳥ではありませんが、池の中に泳ぐヌートリア2匹の姿は水生植物の植生変化など現代の外来種問題も投げかけているようでした。

4 上池東岸（鉄塔下）にて

上池東岸鉄塔下のコウノトリの定点観察場所に到着しました。水面には多数のカルガモ、コガモ、マガモが泳ぎ、岸の草むらや干潟にアオサギ、ダイサギがたたずむものの、残念ながらコウノトリの姿はありません。

全員集合してCLの谷角委員から、コウノトリとツルの足指の形態の相違が、地上と樹上という営巣場所・育雛の方法に影響すること、コウノトリは肉食で一日に体重の1割の重さの餌を食べる大食漢であること、花札の「松とツル」は昔の日本人がコウノトリをツルと見誤った可能性が高いこと、乱獲や環境破壊で野生種の絶滅に至った経緯から特別天然記念物に指定され、豊岡での保護、人口繁殖の結果、現在では3百羽を超えるところまで回復したことなど、興味深いエピソードとともに、自然保護の意識向上の必要性を訴えられました。

説明が終わる頃に、講師がカルガモやコガモの群れの中に、なかなか見られないマガンを発見され、皆で観察できたのがコウノトリに代わるお土産になりました。



(マガン：中央上)



最後に全体写真を撮影し、上池で解散、思い思いのペースで参加者は帰途に就きました。

《見られた鳥》 （順序は日本鳥類目録第7版による）

マガン・オカヨシガモ・ヨシガモ・ヒドリガモ・マガモ・カルガモ・コガモ・ホシハジロ・カイツブリ・キジバト・カワウ・アオサギ・ダイサギ・オオバン・トビ・モズ・ハシボソガラス・ハシブトガラス・シジュウカラ・ヒヨドリ・メジロ・ジョウビタキ・スズメ・セグロセキレイ

計24種

自然保護委員会

記録：深見 山本 服部 丸山

追伸

解散後の12時ごろ、20名程がその場に残って昼食をとったり、野鳥観察を継続したりしていたところ、前触れもなく1羽のコウノトリが悠然と頭上を滑空し、池に降り立ちました。続いてもう一羽も飛来し、2羽が採餌するところをじっくり観察できました。文字通り、「残り福」となりました。



飛来したコウノトリ

